

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4490100114
法人名	医療法人 謙誠会
事業所名	グループホーム「和庵」
訪問調査日	平成 20 年 5 月 13 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 20 日
評価機関名	NPO法人 第三者評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

〔取り組みを期待したい項目〕

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

〔取り組みを期待したい内容〕

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

作成日 平成20年5月13日

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4490100114		
法人名	医療法人 謙誠会		
事業所名	グループホーム「和庵」		
所在地	〒870-0868 大分市大字野田808番地 (電 話) 097-549-7007		
評価機関名	NPO法人 第三者評価機構		
所在地	〒870-0025 大分市顕徳町2丁目1番5号		
訪問調査日	平成20年5月13日	評価確定日	

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 12人、非常勤 1人、常勤換算	7人

(2)建物概要

建物構造	木造一部鉄筋コンクリート造り
	1 階建て 1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円		その他の経費(月額)	円
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500円	

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	14 名	男性	6 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	68 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	博愛病院、博愛診療所、三愛メディカルセンター、佐藤歯科、老健
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大分市の郊外の平坦な高台に位置し、日当たりが良く、周囲には緑に囲まれた田園風景が広がり、各種大学が散在する学園都市の雰囲気もある。木造一部鉄筋コンクリート作りの建屋は天井が高く風通しがよく居住環境として快適である。また、オール電化が施され厳しい防火体制が敷かれている。運営法人が医療法人であるため病院、診療所が併設されており、介護と医療が連結されているところもこの施設の特徴といえよう。設立1年の若いホームであるが職員の規律が取れ各種研修にも参加し士気が高い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目: 今回初めての評価受信のため指摘の該当項目はありません。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 開設以来管理者を先頭に関連書類の整備に努め自己評価に備えて準備をしてきた経緯が伺える。自己規律が確定、職員がそれに倣って自己研鑽に励んでいることがうかがい知れる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 設立1年の施設としては二ヶ月に1回の運営推進会議をコンスタントに開催し、行政、医師、地域包括のケアマネ、職員が常時出席して開催されていることは賞賛に値するとともに記録もしっかり保存されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部 家族との関係は開設当初は不慣れなために幾つか不具合が散見されたが現在は家族通信などを通じて良好な関係を構築している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 周辺には田畑が広がり施設や学校などが点在している。一般民家がほとんど無いために地域の区長に対して積極的に協力を求め良好な関係を築いている。また老人会などの協力も得ている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共生の生活づくり」「社会参加の生活」を理念とし、特に社会参加の面では外出の機会を多く取り、様々なことに触れ合えるように心がけている。	○	設立当初に管理者が中心になって作成したものであるが1年が経過し職員とともに平明な分かり易い理念作りを期待するとともに目に付く場所に掲示していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	当初は職員に仕事を好きになってもらうために、自主性・自発性を尊重し枠にはめた指導はしていない。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小中高生の慰問やボランティアの受入を実施している。先方の文化祭にも積極的に参加し、法人主催の祭りでは近隣の方との交流を深めている。	○	周囲に一般家庭が少ないので定期的な郵便物やお知らせなどで地元との連絡、交流を深める努力を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・ユニット責任者でしか自己評価を実施していない。	○	今回の実施を機会に職員全員で評価を活かした取り組みに励んでいただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	設立1年目で医師、行政、区長、包括ケアマネなど参加が中々困難視される立場の方のコンスタントな参加があり、2ヶ月に1回確実に開催されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問に感じたことや、問題発生時や指導を仰ぐときに訪ねる程度で必要以上の往来は無い。	○	地理的なハンデは認めるが、月に一度は訪問することが期待されます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者の近況報告として写真が入ったお便りを発行している。個人に関することはそれに記載して全体のことはグループホーム新聞にて報告を行っている。		金銭管理については管理者が関連書類を整備し保管している。職員の移動については1年経過して落ち着いてきている。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時意見を受け付けるようにしている。また、苦情を受け付ける体制も整えている。		病院の併設があるため困難事例の受け皿的な面が避けられないが、職員の努力で今はクレームがほとんど無い状況に至っている。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設1年目のため人事異動の実施は無いが新入職員のために利用者とのコミュニケーションがとりやすいような時間を作っている。		人事異動は10日間くらいのオーバーラップ期間を設け自然に新しい職員になじめるようにしている。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修が毎月行われており参加可能な職員には参加してもらっている。外部研修についても勤務調整をして出来るだけ参加できるようにしている。	○	法人の研修は充実しているが、より完全を期すためにも、認められているとはいえ、一部無資格職員の資格受講をバックアップする体制の構築が期待されます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営の参考になるような交互訪問を実施しているが未だ限られた範囲での実施でしかない。	○	カウンターパートの職員を数名ずつ交互訪問させる取り組みを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後は担当の職員が対応し、ホームの雰囲気になじめるように接している。家族とも連絡を取り、状況を伝えるようにしている。		利用者との馴染みの関係を作るための雰囲気作りがうまくいっている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活を送る中でともに活動を通じ(食事準備、片付け、洗濯物、レク)喜びなどを分かち合っている。手助けできる人には積極的に手伝ってもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの職員には希望などを伝えてくるため即座に対応できるように努めている。職員との関係がうまくいっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスの内容や家族との情報交換を活かしている。また、本人の情報については担当者からの報告を受け介護計画の見直しも毎月行い、計画の管理もしっかり出来ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しをおこなうが、状態に変化があったときには、関係者を含め新たな計画のたて直しを行っている。	○	介護計画のたて直しを行ったときには速やかに全職員に周知徹底する連絡網の構築が望まれます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院、診療所、精神科デイケア、デイサービスなど法人施設内に即座に対応できる施設がある。大きな対応については文句のつけようが無いが今後きめ細かな対応の構築を心がける。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内にかかりつけ医ともいうべき医師がそんざいしている。緊急時も即座に医師の往診を仰げる関がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時の説明の中に重度化したときの対応について同意を得ている。	○	病院や診療所があるとはいえ、万が一のときにターミナルケアをどうするのか一層具体的に家族との話し合いの内容を詰めておく必要がある。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーに関することはスタッフルーム内で話すようにしている。また書類関係はシュレッダーで破棄し情報の漏洩防止に努めている。「さん」付け呼称が徹底されている。高齢者を尊敬しているスタッフの態度は好感が持てる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の目安となる流れは作っているがレールに乗せるようなタイムスケジュールは作っていない。希望があれば買い物などの外出にも柔軟に対応している。	○	利用者一人一人が楽しく過ごせるためのプラン作成職員会議を持ってください。合わせて会議録も作成して下さい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	介助の必要な入居者がいるため全職員と一緒に食事を取ることは出来ないが、必ず一名と一緒に食事が出来るようにしている。おしぼりの準備や食器の片付けなどは一緒に片付けるようにしている。	○	食事の献立は栄養士が一方的に作るのではなく利用者の好みを聞いてそれを取り入れることが臨まれます。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は決まっているが希望の時間帯があればそれに添えるようにしている。入浴剤などの希望があれば好みに沿うような体制が臨まれます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お願いできそうな仕事は頼んでいる。自分の役割も分かっているため声かけなどしなくても自ら行ってくれる。外出の機会も多く、気晴らしの支援も行っている。	○	入居者の趣味を把握し、昔取った杵柄が発揮できる環境作りを工夫してください。またうまくいかなかった時の対処法を工夫されることを希望します。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブを積極的に取り入れ季節感を味わってもらっている。	○	室内ばかりで過ごすストレスがたまります。一日一度は戸外に出すような支援方法が望まれます。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	その人の、その日の気分などを察して対応することで日中玄関に鍵を施錠するようなことが無いようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っている。設備点検も積極的に行っている。	○	水害は地の利からありえないが、火災に対してのオール電化がなされており全般的に災害対策は出来ている。食品・水などの備蓄が望まれます。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が行っている。また個別に摂取量のチェックや食欲のない方には高カロリー食などを提供し摂取できるように努めている。		調理場が入居者の各部屋の間点にあり、調理の風景や調理時の手伝いなど献立も分かり易く調理場に掲示してある。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室から出れば食卓やくつろぎのリビングスペースがあり自由に使用できる環境にしている。お茶も好きなきに飲むことが出来季節にあった食事などで節目を感じてもらっている。	○	施設が新しいため「しっとり感」を醸成するためにも生活感や季節感のある物を飾ったりする工夫が望まれます。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と話をし、自宅で使用していた物や思い出のあるものを持参していただいている。	○	本人の要望を取り入れ利用者が居心地よい居室作りが出来るように取り組む仕組みづくりが臨まれます。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム「和庵」(なごみあん)
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分市大字野田808番地
記入者名 (管理者)	田浦淳一
記入日	平成 20 年 1 月 4 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営						
1. 理念と共有						
1	○			「共生の生活づくり」「社会参加の生活」を理念とし、特に社会参加の面では外出の機会を多くとり、様々なことに触れ合えるように心がけている。		
2	○			ユニット会議や新人研修の時に話し合いの機会を持ち、全員で取り組めるようにしている。		
3	○			玄関やスタッフルーム内など目のつきやすい場所に掲示し、理解を求めている。また入居時には家族などに説明をさせてもらっている。		
2. 地域との支えあい						
4			○	近隣までが歩いて往復できる距離ではないため、実施できていない。	○	グループホームというのが一般の方に浸透していない面もあり入院施設と誤解されている状況がある。広報誌などを通じて、地道に理解を求めていき地域と関わっていきたい。
5		○		小中高生の慰問やボランティアの受け入れを実施している。文化祭などにも参加し、法人主催の祭りでは、近隣の方との交流に努めている。		

項 目		a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	○			認知症の理解や接し方を学んでもらうため、小中高生の慰問受け入れをおこなっている。人材育成の場として、実習生の受け入れを積極的におこなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用							
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		○		管理者・ユニット責任者でしか自己評価を実施していない。	○	全職員を対象として、数ヶ月に一度の割合で自己評価を実施していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○			ホーム内で実施したことや、事故に関することなどすべて報告し、評価していただいている。欠席された方には、会議で使用したすべての資料を送付し、意見を聴ける体制を整えている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○		疑問に感じたことや、問題発生時や指導を仰ぐ時に訪ねる程度で、必要以上の往来はない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		○		管理者や計画作成担当者は公的な勉強会に参加している。しかし、職員全員が理解するまでにはまだ時間が必要と思われるが、指導は継続しておこなうようにしている。	○	勉強会に出席した職員が伝達講習を開くという形で、今後は勉強をしていきたいと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		○		該当する入居者は居ないが、カンファレンスを通じた中で虐待の勉強や、新聞などで報道される内容に関しても問題意識を持って取り組んでもらうようにしている。	○	関連法に対する理解に曖昧な点もあるため、資料を準備し再度勉強会を開きたいと思う。

項 目		a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制							
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○			契約に関しては十分に説明をおこない、理解・納得をしてもらっている。契約前に見学に来ていただき、不安や問題点の解消に努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○			利用者と個別に話せる機会を持ち、その中から意見などをくみ上げている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○			毎月、利用者の近況報告として、写真が入ったお便りを発行している。個人に関することは、それに記載し全体のことに限っては、グループホーム新聞にて報告をおこなっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○			常時、意見を受け付けるようにしている。また、苦情処理の体制も整えている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○			ユニット会議やミーティングで、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。意見を尊重するように心がけている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	○			休日など職員の要望にこたえられるように、勤務調整をおこなっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	○			開設一年目途中のため人事異動の実施はないが、新入職員のために利用者とのコミュニケーションがとりやすいような時間をつくっている。		

項 目		a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援							
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		○		法人内研修が毎月おこなわれており、参加可能な職員には参加してもらっている。外部研修についても、勤務調整をし認知症実践者研修に参加するなど人材育成に努めている。無資格者の資格取得にも協力していく予定である。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		○		他事業所の管理者と、運営の参考になるような交互訪問を実施しているが、まだ限られた範囲での実施でしかない。	○	管理者とてなかなか現場を離れることができないため、交流の機会があればできるだけ参加するようにしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		○		勤務時間内に、決まった時間やまとまった時間に休みが取れないため、適宜休みが取れるようにしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○			向上心のある職員には、資格取得のための援助があり手当も支給している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応							
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○			本人からの希望や要望を必ず聞くようにしている。ただ、障がいにより表現できない方については、家族から生活歴などを聞きコミュニケーションを取れるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○			相談事に対しては、時間をかけゆっくり聞けるように心がけている。		

項 目		a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○			相談内容を吟味し、必要なサービスを判断してアドバイスをおこなうようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○			入居後は、担当の職員が対応し、ホームの雰囲気に馴染める様に接している。家族とも連絡をとり状況を伝えるようにしている。また、個人のリズムにあったケアやグループ活動を取り入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援							
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○			日々の生活を送る中で、共に活動を通じ(食事準備・片付け・洗濯物・レク)喜びなどを分かち合っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	○			面会時に近況報告をしたり、お便りを活用したりして、共に支えあっていることを感じてもらっている。また、必要時には協力も得られるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	○			グループホームに入居された後も疎遠にならないように、面会の必要性や外出・外泊も、取り入れてもらえるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○			利用者から外出したいという希望はないが、先方から面会に来てくれたりしている。また外出の機会を活かし、出身地をドライブしたりと思い出を大切にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている		○		仲の良い方々は心配していないが、孤立する方がどうしても発生してしまうため、余暇活動などを活用し双方が溶け込める環境をつくるようにして、関係を築くようにしている。		

項 目		a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	○			サービスの利用が終了しても、利用者には遊びに来てもらえるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
1. 一人ひとりの把握							
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○			馴染みの職員には、希望などを伝えてくるため、即時に対応できるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○			入居時に本人・家族・その他の方から得た情報を活用している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○			介護日誌を活用し、一日の状態や心身の状態を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し							
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○			毎月のカンファレンスの内容や、家族との情報交換を活かしている。また本人の情報については、担当者からの報告を受け計画に入れ職員に周知徹底している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○			定期的に見直しをおこなうが、状態に変化があった時は、関係者を含め新たな計画の立て直しをおこなう職員に周知徹底している。		

項 目		a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○			個別に時間単位で記録をとっているため、情報の共有・対応が統一できようになっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援							
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	○			法人内に病院・診療所・重度認知症デイケア・デイサービス・精神科デイケア・こども成育医療センターなど充実した施設があるため、その人の状況に応じて必要な社会資源を提供することができる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働							
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している		○		地域の学校と交流を持ち、児童・生徒と接する機会をもっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	○			法人内にある、デイケアやデイサービスなどの通所者と交流がもてるように、イベントがあれば参加するようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○			地域包括支援センターの方には、毎回運営推進会議に出席していただき情報交換などをおこなっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○			法人内に病院と診療所があり、急変事はすぐに対応できるようにしている。他院受診でご家族が同行できない時は、職員が代行するようにしており、継続的に治療を受けられるようにしている。		

項 目		a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	○			法人が精神科であるため、医師は認知症における専門医である。状態の変化があればすぐに指示がもらえる体制ができている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	○			准看護師を常勤で配置しており、日常の健康管理を行っている。また医療機関とも連携をとりながら対応している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	○			入院施設の責任者と連絡を取り合い、早期退院に努めている。看護職員が、医師や家族と情報交換しながら対応している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	○			病院・診療所が隣接していることもあり、ターミナルケアについては入院加療体制を整えている。入居時の説明の中に、重度化したときの対応について説明し同意を得ている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	○			本人や家族の意向を踏まえ、医師や関係職員と連携をとり、終末期に向けた準備を取っている。また、急変時などは隣接している医療機関で受け入れてもらえるよう連携をとっている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	○			他の事業所に移る場合は、担当職員が前もって訪問し、ご本人の生活状況などの情報交換をおこなっている。また訪問する機会を作ったりして、心のつながりを続けている。		

項 目		a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
1. その人らしい暮らしの支援							
(1)一人ひとりの尊重							
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○			個人のプライバシーに関する事は、スタッフルーム内で話すようにしている。また書類関係はシュレッダーで破棄し、情報の漏洩防止に努めている。研修会で勉強をして新入職員などにも指導をおこなっている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○			職員が、決めたことを押し付けるようなことはなく、意見を聞いたり説明をする中で、本人の決定を尊重している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○			一日の目安となる流れは作っているが、レールに乗せるようなタイムスケジュールは作っていない。希望があれば買い物などの外出にも柔軟に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援							
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○			朝の着替えは本人の意思に任せている。しかし自己決定しにくい利用者については、その日の行事などに合わせて職員が選んでいる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		○		介助の必要な入居者がいるため、全職員と一緒に食事を取ることはできないが、必ず一名と一緒に食事ができるようにしている。おしぼりの準備や食器の片付けなどは、一緒に片付けるようにしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○			酒・タバコを嗜む方はいなが、お菓子などの嗜好品は買い物に行った際、購入できるように支援している。		

項 目		a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○			日中、尿意のない利用者には、声かけやトイレ誘導をおこなっている。尿取パットや、リハビリパンツを使用している方もいるが、最小限の使用に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○			入浴の時間帯は決まっているが、希望の時間帯があればそれに添えるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○			日中の活動を促して、生活リズムを整えるようにしている。夜間どうしても眠れない方には、医師に相談して薬を処方してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援							
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○			お願いできそうな仕事は頼んでいる。自分の役割も分かっているため、声掛けなどしなくても自らおこなってくれる。外出の機会も多く持ち、気晴らしの支援もおこなっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○			金銭を管理できる方には、数千円持ってもらっている。事業所が管理している場合は、外出時に個人へ渡し、満足感を味わってもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	○			個人の希望を聞き、買い物やドライブを積極的に取り入れ、満足感や季節感を味わってもらっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	○			季節ごとにバスハイクを計画し、ご家族にも呼びかけ実施している。		

項 目		a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		○		公衆電話を設置しており、いつでも自由にかけられるようにしている。	○	手紙は取り組んだことがなく、今後可能な限り取り組んでいけたらと考えている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	○			面会時間は21時までとしているが、連絡いただければその限りではない旨を契約時に伝えている。また、宿泊されるご家族もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援							
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○			カンファレンスなどの機会を利用して、身体拘束について話し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	○			その人の、その日の気分などを察して対応することで、日中玄関に施錠するようなことがないようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	○			職員は、日中ホールにて事務作業をおこない、夜間においては、居室が見渡せる場所にて作業をおこなっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	○			はさみ等については、事務所で保管し必要にあわせて貸し出している。洗剤については、個人で利用できるよう洗濯場に設置してある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	○			小さな事故に関しても報告書を作成し、集計分析をおこない再発防止に努めている。ご家族にも、ホーム内であったすべての事故を報告している。		

項 目		a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○			法人内の研修で、外部から講師を呼んで研修をおこなっている。また、看護職員から緊急時の器具取り扱いについても学んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○			近隣までが遠いため、職員は常に防火に対する危機感を持って対応している。年2回の避難訓練をおこない設備点検も定期的の実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	○			自由に行動できることによるリスクについて、事故報告を通じて家族に伝えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援							
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	○			体調の変化が多い方が大半のため、日々のバイタルチェックや表情・行動などを観察し、早期に対応できるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○			服薬内容の分かる処方薬説明書を、個別に整理して把握している。薬の内容が変わった時は、状態の変化を見逃さないように注意を払い、看護職員と連携して対応している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	○			個別の排便チェック表を作成しており、リズムの把握に努めている。便秘気味の方には、看護職員と連携して水分補給の調整をおこない、どうしてもでないときは下剤や浣腸をおこなっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	○			毎食後、歯磨きを実施しているが、磨き残しの多い方には職員が介助している。就寝前には、義歯を洗浄剤に浸し消毒をおこなっている。		

項 目		a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○			献立は、栄養士がおこなっている。また、個別に摂取量のチェックや食欲のない方には、高カロリー食などを提供し摂取できるように努めている。水分の補給も茶話会などを通じてできている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○			感染症対策委員会での資料を参考に、勉強をおこなっている。手洗いは、ペーパータオルを使用し、タオルにおける感染症を防いでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	○			まな板や包丁は常に乾燥させ、菌が繁殖しないようにしている。また、定期的に消毒もおこなっている。食品管理については、まとめ買いをしない体制を整えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり							
(1)居心地のよい環境づくり							
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	○			玄関には、季節が感じられるような小物を置いて、その時期の雰囲気味わってもらっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○			居室から出れば、食卓やくつろぎのリビングスペースがあり、自由に使用できそうな環境にしている。お茶も好きなききに飲むことができ、季節に合った食事などで節目を感じてもらっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○			テーブルやソファを利用して、2～3名の少人数で雑談などできる空間がある。		

項 目		a (できている)	b (十分ではない)	c (できていない)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○			本人・家族と話をし、自宅で使用していた物や、思い出のある物を持参していただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	○			起床後、室内の換気をおこない、日中は天候や気温を見計らって換気をおこなっている。トイレは、換気扇・消臭剤を使用し、不快な臭いが出ないようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり							
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○			トイレ・浴室には手すりが設置しており、移動や移乗がしやすいようになっている。キッチン・冷蔵庫は、自由に出入りできるような造りになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	○			自分の居室が分からない方には、表札をつけ分かりやすいようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	○			玄関前にスペースがあり、気候が良いときは景色を眺めたりゲームをおこなったりしている。また、グループホーム前の芝生からは、由布・鶴見・高崎山が望むことができ景観が良い。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームは、昭和62年から認知症ケアに取り組んでいる病院が開設した事業所です。法人全体として、認知症対応型グループホーム以外にも、入院施設・子供成育医療センター(小児デイケア・小児デイサービスなど)・精神科デイケア・精神障害者社会復帰施設・重度認知症デイケア・通所介護・地域生活支援センター・精神科グループホームなど多岐にわたって専門性を有しております。環境的には、由布山・鶴見山・高崎山を一望できる野田の高台にあり、四季を感じ取ることのできるすばらしさがあります。また、ホーム内の環境としては開放感ある建物となっており生活しやすい造りとなっています。職員は、介護や医療に関する研修の機会を持ち向上心を持って職務にあたり、今後も継続していきたいと思っています。